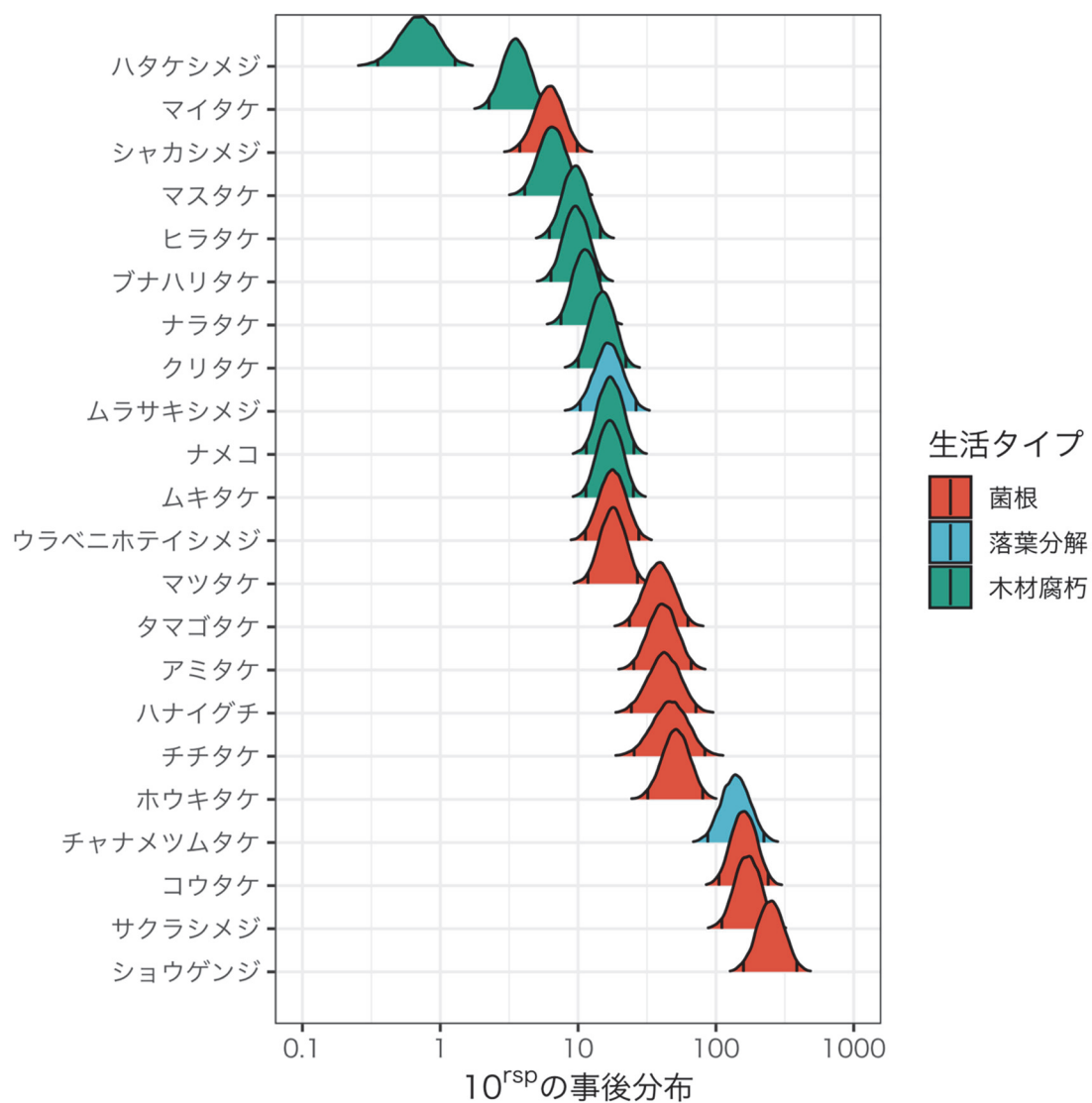


付図-1. 図1で示した市町村ごとの種の ^{137}Cs 濃度測定値の正規Q-Qプロット。
測定値は常用対数化した後、平均がゼロになるように標準化してある。 ^{137}Cs 濃度が検出限界以下であった場合、検出限界値を用いた。



付図-2. 種の ^{137}Cs 濃度の平均値パラメーター (r_{sp}) の事後分布。

種の幾何平均値として評価しやすくするため10の累乗数 ($10^{r_{sp}}$) の分布を示した。生活タイプにより色分けした。分布中の縦線は両側95%のベイズ信用区間(2.5%, 97.5%)を示す。統計量は電子付録付表-3を参照。